

France-Japan Joint Forum on Organofluorine Chemistryにてポスター発表

私はフランスのストラスブールで開催された France-Japan Joint Forum on Organofluorine Chemistry for Future Pharmaceutical/Agricultural and Material Sciences に参加しました。フッ素に関する研究をしている人が多く集まり、フッ素の導入反応やフッ素含有生理活性物質の研究成果が多く報告されており有機化学におけるフッ素の重要性を再認識する機会となりました。またアカデミアの研究に限らず、企業研究者の発表も多く産業界におけるフッ素含有化合物の利用とプロセス合成の研究は非常にレベルも高く、多くのことを学ぶことができました。

私は「Dianionic phase transfer catalyst for asymmetric fluorofunctionalization of allylic amide」というタイトルでポスター発表を行いました。内容は独自に開発したジアニオン型相間移動触媒を用いたアリルアミド類の不斉フッ素化反応の開発とその反応機構解析についてです。多くの方がポスターを見てくださり、様々な議論をすることができ、今後の研究をよりよく進めていくための非常に有意義な時間となりました。一方で英語での質疑応答は伝えたいことが思うように伝わらないもどかしさを感じる場面も多くあり語学力の向上が必要であると感じました。今後も国内外の学会に参加し自分の能力を向上し、見識を広げられるように日々精進していく必要があることを再確認し、世界中の人に自分の研究がしっかり伝えられるように英語の能力向上も今後の目標にしたいと思います。

薬食生命科学総合学府 薬科学専攻 博士後期課程2年
医薬品創製化学研究室 丹羽智紀

